

当院の災害対策

~ NTT災害伝言ダイヤル171を利用して~

両国東口クリニック

松山良信、川本祐美、濱田絵美、増田慶子、
関口泰央、荒木秀明
諸見里仁、大山恵子、大山博司

災害対策の一例

- スタッフは運動靴を着用
(患者にも可能な限り運動靴を着用)
- スカートを廃止してズボンに
- 自家発電機の装備
- RO・供給装置のゲルコートによる固定
- 配管のフレキシブル化
- 災害時保存食(3日分)の販売
- 患者への指導 など

安否確認

- **大型災害が発生した場合に全患者との連絡をとるには数名のスタッフと相当の労力が必要であり、その労力を来院した患者に注ぎ込む事が大切ではないかと考え、当院の診療状況の提供を行う目的にてNTT災害伝言ダイヤル171(以下171)の利用を開始しました**
- **患者個々の安否確認は出来ませんが、患者の防災への意識向上が出来る**

NTT災害伝言ダイヤル171とは？

- 災害時に限定して利用可能。
- 平成10年3月31日より提供開始。
- 伝言録音時間 1伝言あたり30秒以内
- 伝言保存期間 録音してから2日(48時間)
- 伝言蓄積数 1電話番号あたり1~10伝言(提供時にお知らせいたします。)
- 伝言の録音・再生時の通話料のみ必要です。
- 伝言蓄積等のセンタ利用料は無料です。

171の体験利用

- 毎月1日 00:00 ~ 24:00
- 正月三が日 (1月1日00:00 ~ 1月3日24:00)
- 防災週間 (8月30日9:00 ~ 9月5日17:00)
- 防災とボランティア週間 (1月15日9:00 ~ 1月21日17:00)
- 伝言録音時間: 30秒
- 伝言保存期間: 6時間
- 伝言蓄積数: 10伝言

NTT作成171 クイックマニュアル

当院オリジナル171 クイックマニュアル

NTT東日本 クイックマニュアル

災害伝言
ダイヤル
「171」

ご利用にあたっては
資料をお読みください。

伝言の録音方法

※フッシュボタン式電話機とは
数字ボタンを押すことで「ピッ
ピーン」といった音が聞こえる
電話機のことです。

1 7 1 に電話をかける
ガイダンスが流れます。

1 録音番号を利用する場合は **3**
ガイダンスが流れます。

被災地の方はご自宅の電話番号を
被災地以外の方は被災地の方の電話番号を
→ 市外番号からダイヤルしてください。

(× × ×) × × × - × × × × ×

ガイダンスが流れます。

回転ダイヤル式電話機の方	フッシュボタン式電話機の方
ガイダンスが流れます。	1 # ガイダンスが流れます。
録音 (90秒以内でお話ください。)	9 # ガイダンスが流れます。

※伝言は被災地の方の電話番号を知っているすべての方が聞くことができます。
聞かれないメッセージを録音する場合は、あらかじめ宛先番号を決めておく
必要があります。

NTT東日本 クイックマニュアル

災害伝言
ダイヤル
「171」

ご利用にあたっては
資料をお読みください。

伝言の再生方法

※フッシュボタン式電話機とは
数字ボタンを押すことで「ピッ
ピーン」といった音が聞こえる
電話機のことです。

1 7 1 に電話をかける
ガイダンスが流れます。

2 電話番号を利用する場合は **4**
ガイダンスが流れます。

被災地の方はご自宅の電話番号を
被災地以外の方は被災地の方の電話番号を
→ 市外番号からダイヤルしてください。

(× × ×) × × × - × × × × ×

ガイダンスが流れます。

回転ダイヤル式電話機の方	フッシュボタン式電話機の方
ガイダンスが流れます。	1 # ガイダンスが流れます。
再生	9 # ガイダンスが流れます。

伝言を追加して録音されるときは **3 #**

災害伝言ダイヤル

クリニックの状況を確認するとき

1 7 1 に電話をかける
↓
ガイダンスが流れます

2 をダイヤルします
↓
ガイダンスが流れます

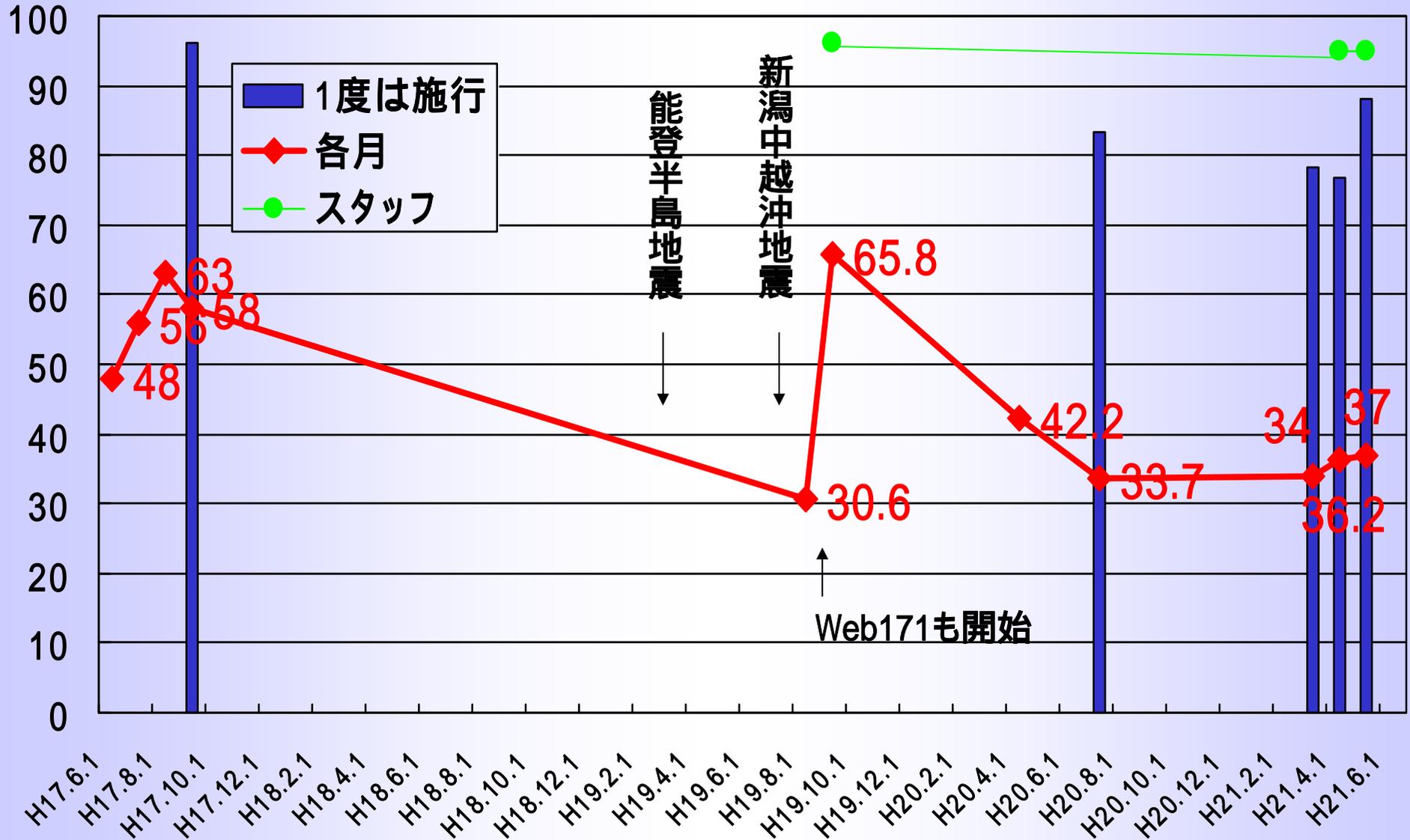
0 3 - 5 6 3 8 - 6 0 7 3

をダイヤルするとクリニックの情報が流れます。

方法

- 毎月1日の171体験利用日を当院の防災の日とする。
- 月末にベットサイドや帰室時などに1日の171を行うように促す
- 体験利用は深夜0時からですが、当院は昼12時より開始
- 体験利用日は保存期間が短いので2時間毎にメッセージを録音する

実施率



伝言内容の検討

- ・開始当初は施設名と訓練実施中のメッセージで毎回ほとんど同じ内容のため患者のモチベーションが下がったので防災委員会にてメッセージの内容の検討。
- ・171とは別に行った災害を想定した透析条件のアンケート(ポスター 参照)にて患者の透析条件の把握が良くなかったので、171とコラボレーションしてに透析条件の確認をしてもらうメッセージに変更。

災害時を想定したアンケート

緊急透析問診票

氏名_____ 歳 男・女

通常透析施設名_____ クリニック・病院・医院

DW_____ kg 本日の体重_____ kg

1週間の透析回数_____ 回

1回の透析時間_____ 時間_____ 分

通常使用している

ダイライザ - 名称_____ m²

血液流量_____ ml/分

通常使用している抗凝固剤

ヘパリン・低分子ヘパリン・フサン(メシル酸ナファモスタット)

使用量

伝言内容

- 検討前

『こちらは両国東口クリニックの災害伝言ダイヤルです、体験運用を行っています』

- 検討後

『こちらは両国東口クリニックです、今月の透析条件の確認はDWと血流量です、次回の透析時に質問しますのでもう一度確認して下さい』

『こちらは両国東口クリニックです、透析手帳は携帯していますか？ご自身の透析条件は覚えていますか？もう一度確認しましょう』

患者の反応

- 開始当初は『あのメッセージの声は さん？』程度の反応でした。
- 一部の患者は『1日は何の日』と聞くと『171』とか『電話する日』など生活の一部になった。
- 変更後は『DWは kg』や『Qbは200』、『ヘパリンだよね』などと訓練に参加して更に自身の透析条件の確認も出来る様になり、患者個々の意識が高まっています

結語

171の伝言内容を
工夫する事により
透析条件把握するなど
防災に対する意識の
向上が確認された